



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート

第16号(2008年6月23日)



スマート・シティ

UAE(アラブ首長国連邦)の大規模開発と言えばやはりドバイ、アブダビが有名ですが、UAEを構成する7首長国のうち最も規模の小さいアジュマンにおいても、このたびドバイ、アブダビに負けじと大規模開発計画が発表されました。その名は「スマート・シティ」といい、総事業費約5.5億ドルをかけて約128万㎡の広大な土地に8つの高級住宅タワーを建設するというものです。スマート・シティはドバイ国際空港にも近接したアジュマンのエミレーツロード沿いに建設され、住民に最高級の居住性と美的空間を提供する総戸数3,500戸以上の巨大高級マンションとなります。また、スマート・シティには安心して快適な生活をサポートするため、以下の高機能なホームネットワークが完備される予定です。

- LG製 液晶TV (1,000作品以上の映画も提供)
- LG製 洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ
- iPodドッキングステーション (無制限の音楽ダウンロードサービスを提供)
- LG製 液晶ホームネットコントロールパネル

さらに、このような快適な居住性能に加えてエンターテイメントも充実しており、スイミングプール付のヘルス&フィットネスセンターやスカッシュコート、バドミントンコート、卓球・ビリヤード場なども完備される予定です。

また、これ以外にも小さな子供を持つ家庭のための託児所、ホームパーティやイベント用の多機能ホールなども完備される予定となっており、まさに至れり尽くせりの超高級マンションとなりそうです。(ミドル・イーストウッド)



出所: AME Info



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート



アブダビ・トップ10・プロジェクト(後編)



先週に引き続き、アブダビのプロジェクトを規模順に紹介いたします。

5位、マスタートール・シティ

マスタートール・シティ・プロジェクトは総事業費220億ドルをかけ世界初のCO2排出・廃棄ゼロの都市を創る試みです。大学、商業施設、住宅、環境にやさしい工業地帯を造り、車を無くした都市は、太陽発電と風力発電で電力を供給します。

6位、アル・ラハ・ビーチ

アル・ラハ・ビーチは130億ドルで開発される多目的の埋立地です。およそ12万人が利用できる50の高層ビルと、多数の低層ビルが建設され、アブダビの中心部とは水上タクシーで結ばれます。

7位、ガントート・グリーン・シティ

アブダビのインターナショナル・キャピタル・トレーディング社は100億ドルで多目的都市ガントート・グリーン・シティと呼ぶ都市の開発を計画しています。商業センター、ホテル、オフィス、住宅エリア、倉庫、軽工業エリアで構成されます。

8位、アル・リーム島開発

アル・リーム島開発は、78億ドルでアル・リーム島とアブダビ・シティをつなぐ橋の袂で開発されるプロジェクトです。中心部のビジネスエリアには複数の40～50階建てのビルや、2つの80階建てビルが建設され、約8万人が居住可能になります。

9位、シェイク・モハメッド・ビン・ザーイド・シティ

シェイク・モハメッド・ビン・ザーイド・シティは374棟の住居・商業タワー、社会基盤、娯楽施設からなります。アブダビ・アル・アイン・ハイウェイ沿いに開発され、総事業費は65億ドルです。

10位、アブダビ・レール・プロジェクト、MGMグランドホテル

それぞれ30億ドルの事業規模になります。アブダビ・レール・プロジェクトは研究段階ですが350kmの鉄道計画です。MGMグランドは、2つの高級ホテルに1200以上の部屋があり、1万2千席のアリーナ、小売店、レストラン、ウォーターフロント住宅、プライベート・ヨットハーバーなども作られます。

UAEの盟主アブダビも、ドバイに負けまいとして次々と巨大プロジェクトを計画中です。

今後も目が離せません。

(無きにしもアラブ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート



駅までは車で



現在進行中の鉄道プロジェクト「ドバイ・メトロ」は、ドバイの自動車交通渋滞を解消することが期待されておりますが、実はそう単純でもないようです。

というのは、駅までの移動手段として、多くの人が自家用車を使用することが想定されているからです。既に駅の周辺には3つの大型駐車場の設置が予定されており、一番大きな駐車場は、約6,000台の駐車スペースを有しています。その他の2つの駐車場も2,000台以上の駐車可能な大型のものであり、現地では「駅には車で行くもの」というのが当たり前になりそうです。

もちろん路上駐車されたら、元も子もないので駐車場を用意すること自体はいいことなのですが、日本のようにバスやタクシーで駅まで行く、といった発想は今の所なさそうです。

(グッド・バイ)

コーヒーブレイク 11



記念すべき第1回のコーヒーブレイクのおさらいをしますと、「モカ」というのは、中東のイエメン産とアフリカのエチオピア産のコーヒーのかつての集積港であったイエメンにある「モカ」港に因んで名付けられたものだということでした。

「モカ・マタリNo.9」はイエメン産の最高級品であり、その一方で、エチオピア産としては、「モカ・シダモNo.1」が最高級品と言われております。紅海をはさんで、イエメン側では数が大きいほどグレードが高く、エチオピア側では数が小さいほどグレードが高いというのも面白いもので、文化の違いがあるようです。ところで、日本では「級」は小さいほど良く、「段」は大きいほど良いというのも不思議ですね。

さて、日本での知名度は「モカ・マタリ」の方が高いようですが、エチオピア産の「モカ・シダモ」の方が流通量としては圧倒しているような印象を受けます。なぜなら、いつも行くコーヒー豆屋さんにはマタリNo.9がないんで、シダモばっかしたもん。

(みんなのGULF)

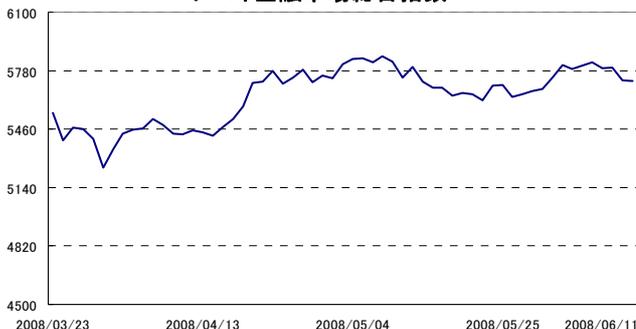


本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



【ご参考】 中東(GCC)地域の株価推移
(各市場の直近3ヶ月)

ドバイ金融市場総合指数



サウジアラビア タダウル全株指数



クウェート証券取引所指数

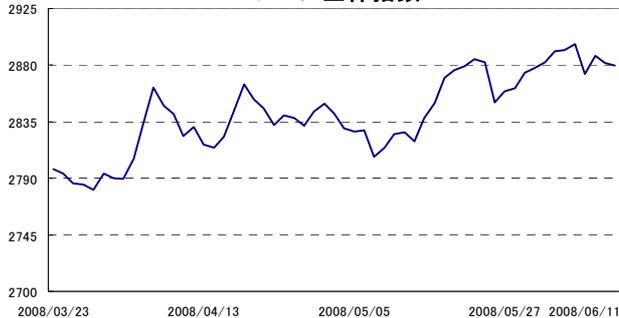


出所:ブルームバーグ

アブダビ証券取引所株価指数



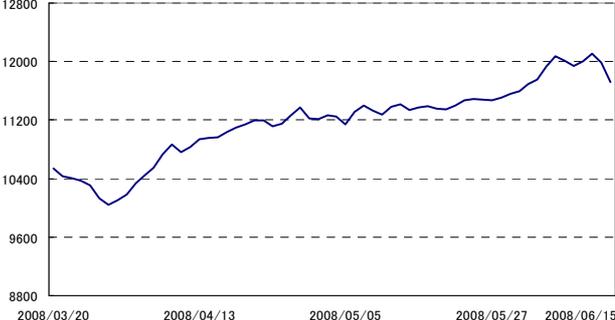
バーレーン全株指数



カタール DSM指数



オマーン マスカットMSM30指数



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。